

第5回町田市中心市街地整備計画策定検討委員会 会議録要旨

【会議日時及び場所】

日 時 2015年2月17日(火) 10:00~12:00
場 所 町田市役所 3-1 会議室

【出席者】 (敬称略)

■委員

真野洋介、西田司、大熊省三、清水哲夫、田中伸和、三輪律江、柳沢厚、岩崎俊男、野澤滋享、石井幸隆、大塚信彰、米増久樹、中村英和(山口拓代理)、上田敬生

■事務局

都市整備担当部長、地区街づくり課、企画政策課、未来づくり研究所、文化振興課、産業観光課、建設総務課、道路補修課、都市政策課、交通事業推進課、建物住宅対策課、公園緑地課、UR都市機構

■関係者 4名

■傍聴者 なし

【資料】

資料1 第4回検討委員会意見のまとめ
資料2 検討のスケジュールとフロー
資料3 町田市中心市街地整備計画構成(案)
資料4 プロジェクト(案)

【議事要旨】

- ・ 整備計画における具体的取組みについて事務局から説明を行い、今後の検討方法等について各委員が提言を行った。

【会議内容】

1 開会挨拶

町田市都市整備担当部長から挨拶

2 議事

- (1) 第4回検討委員会意見の振り返り
- (2) 検討の進め方
- (3) 整備計画に示す内容について
- (4) 具体的取組みについて
 - ① 取組みにより目指すこと
 - ② プロジェクト
 - ③ 各プロジェクトの内容

- (1) (2) について、委員長から説明
- (3) (4) について、地区街づくり課から説明

3 その他

次回以降の検討委員会日程について

■ 意見等

(委員長)

- ・「具体的取組みにより目指すこと」について、取組みによってどう変わったか、データだけではなく、様々な人が満足したかどうかを測る方法が必要である。これまでは、機能性が高い場所を増やしたり集めたりする考え方であったが、この整備計画からは、「増やす」のではなく、「質を高める」という方向性を感じている。その点から、人々が満足したかどうかを測る方法が必要ではないか。
- ・10 のプロジェクトについて、通常は実施に係る期間等から優先順位を決めることが多いが、長期間かかることでも、まず第一歩を始めるという点で、10 個を一気に走らせることが大事ではないか。10 番目に残った計画が 10 年後にしかスタートできないという形は計画としてよくない。最初の一步をどれにするか、誰に声掛けするかなどをイメージした方がもっと良い計画になる。
- ・窓口の一本化について、10 のプロジェクトでは窓口でできることとそうでないことがあるのでは。森野住宅の建替えやインフラ整備のような長期的取組みは、窓口でなく、チームのような形になるのではないか。プロジェクトの内容に応じて、窓口型とプロジェクトチーム型のような形に分けたほうがよい。

(委員)

- ・子どもセンターは、線路を越えてまで子供が来るのか、アクセスも車の通行量が多く、信号もないため懸念している。
- ・芹ヶ谷公園の利用について、イベントがある日はたくさん人がいるが、普段は意外と人が少ない。今度国際工芸美術館ができるが、果たして文学館通りを通過してどれほどの人が来るのか、国際工芸美術館がそれほど魅力あるものなのか疑問を感じている。芹ヶ谷公園をもっと魅力あるものにするためには、よりお金をかけて芸術性を高めていく必要があるのでは。現状のまま、文学館通りを通過して芹ヶ谷公園まで行くことは、中々難しいのではないか。
- ・中心市街地に住宅が増えている件について、これからマンションがまだまだ建つことが考えられるが、それに対してどのように対処するか行政として対策をお願いしたい。
- ・シバヒロはイベント時以外にはほとんど人がいない。映画館の誘致など対処策を考えてもらいたい。
- ・小田急町田駅から街に出る際に、全くエスカレーターがなく快適性が低い。構造的な問題もあると思うが、何とか対処しないとお年寄りが可哀想である。

(委員)

- ・文学館通りを一方通行化して電線が地中化されても、商店街が現状のままであれば、現状とほとんど変わらないのではないか。賑わいや一休みできる空間にするには地元の協力が必要。
- ・芹ヶ谷公園の芸術性をもっと高めていく必要がある。現状は芸術性がどうであると言えるものではない。
- ・原町田一丁目だけでなく、二丁目・三丁目もプロジェクトの中に入れられると良い。
- ・小学4・5年生にまちをどうしたいかアンケートを実施する機会があり、駐輪問題への意見や、ビルばかりで空気が淀んでいるので雰囲気をもっと明るくしてほしい、観光客が来るよう名物を作ってほしい、神社やお寺を活かしたらどうか、映画館など若者が楽しめる場所を作ってほしい、駅周辺に木や花を植えてみんなの心が和むまちにしてほしい、皆がマナーを守るまちにしたい、外国人が多く外国人にも町田の良さを伝えたいなどといった意見があった。
- ・子どもセンターから芹ヶ谷公園に向かう場合、大きく迂回することになるので、小田急の上下を通れるようにするなど対処方策が欲しい。
- ・空き地が駐車場になると、人の歩く幅が狭くなるケースが多い。駐車場をどこか別の場所に設けられると良いが。

(委員長)

- ・今の流れにおいては、芹ヶ谷公園の整備は数年後には行われることになっており、もっと中心市街地と関連して位置づけても良い。子どもセンターと芹ヶ谷公園間のアクセス向上や、公園まで楽しく行ける工夫などは、それがひとつのプロジェクトといっても過言ではなく、できるのではないかと考えている。
- ・これから建つマンションをどう誘導していくか、ルールづくりなど「都市型居住まちづくり」の中にかなり入ってくるのではないかと考えている。
- ・広い歩道にお店を出しやすい環境をどう作っていくか、チャレンジしたい人が出店できる環境づくりをどう行うかは、行政と事業者の連携が必要でありプロジェクト化すべき。原町田方面はまだまだニーズが沢山あるのでは。

(委員)

- ・地元としては窓口を一本化してもらった方がありがたいが、森野住宅は明らかに違うプロジェクトであり一本化はできないだろう。駅に近いかつ広い場所があるので、有効に活用されるべきと地元やその周辺は思っている。
- ・駅からシバヒロまでは、踏切があり、車やバスも通っている。バス路線を変えない限りは、もっと開放的な道路アクセスにはならず、土日祭日は歩行者天国にする位で行わないとシバヒロは生きてこない。
- ・シバヒロに中町の消防署を持ってきたほうがよいという声もある。
- ・来街者が芹ヶ谷公園へアクセスする際、町田街道を通らなければならず非常にネックである。
- ・小田急の踏切解消は課題だが、構造的に解決が難しい現状がある。踏切の待ち時間を楽しくするという方向で考えてもらいたい。

(委員)

- ・芹ヶ谷公園と中心市街地間の整備について、規制ではない誘導を行うための施策があるとよい。例えば、版画美術館に行く手前のエリアに景観条例を適用し、外壁や入口に版画美術館をイメージできるものにすると市から補助金が出るという形で、そこからカフェや貸しオフィスなど波及効果が出てくると良いと思っている。
- ・プロジェクトによっては、東京都住宅供給公社や鉄道事業者などと共同で行うやり方もあるのでは。

(委員)

- ・「界限性・雑多性のある商店街づくり」と「原町田大通りにぎわいと憩いの空間形成」は同じような考え方の部分もあるだろう。
- ・ぽっぽ町田がきっかけとなって、シバヒロや市民広場と繋がるような設備が整うと良い。
- ・シバヒロをどうするかは非常に重要。大きな施設を持ってくるとなると長期的な話になるが、短期的に何かやる設備を整えることで、もう少し使いやすくすることを考えていくべき。
- ・中心市街地活性化協議会では、シバヒロとぽっぽ町田、市民広場を繋げる道路沿いにハンギングバスケットで花をつけ、花の通りにするという社会実験を行う予定。地元の方にも意見を頂きながら、明るい話題を作っていきたい。

(委員)

- ・一鉄道事業者として、どういったことができるか検討を行っていききたい。
中長期的には、「原町田一丁目拠点整備」においてどのように協力できるか、できる事を考えていきたい。回遊性向上の為のアクセスデッキについては、単に南北をデッキで繋ぐという事だけではなく、ターミナル口の在り方を含めた駅そのものを全体的に改めて考えていきたい。また、現在流動がとて太い小田急とJR駅間の乗換動線について、ターミナル口方面の南北デッキとうまく結んで動線がうまく広がるようなやり方が取れないか、市や地元と調整しながら

進めていきたい。

- ・短期的な活性化策として、町田市観光コンベンション協会とタイアップし、駅の券売機跡地に観光情報の発信や地元産品を使った商品を提供するコーヒーショップを2/6にオープンした。また、昨年までに横浜線の新型車両の導入が完了したが、車両だけでなく駅のリニューアルも沿線活性化の取り組みとして行っており、子育て支援の面で、JR町田駅改札脇の仮囲い内で「ベビー休憩室」を新設工事中。地元貢献に繋がる取り組みとして、短期と中長期でそれぞれしっかり出来るところから取り組んでいきたい。

(委員)

- ・「駅前大規模商業施設の更新推進」について、行政も積極的に介入していかないと、民間がバラバラに設備投資等を行うだけになりかねないため、更新を誘導する施策が必要。
- ・「広域交通拠点の整備」について、鉄道とバスの連携に課題があるなど、バス事業者を含めての議論が必要なのではないか。
- ・小田急町田駅の段差解消について、駅周辺の回遊性においては非常に重要。デッキとバリアフリーがうまく接合できていない所があるので、行政も巻き込みながら解消できれば。
- ・駅周辺にバス発着所等が分かるデジタルサイネージが設置されている。例えば今工事中の成田空港第3ターミナルでは、どこへ行けばよいか分かるよう床面にサインがある。鉄道間の乗換動線にバスを乗場の案内を含めて、行政と交通事業者で一体的なサインの再編整備ができれば。
- ・森野住宅は、町田側だけでなく相模原側からのロードアクセスも検討する必要があるだろう。
- ・2020年の東京オリンピックに向けて、訪日外国人も増えている状況もあり、インバウンド的な施策も盛り込んでいく必要があるのではないかと

(委員)

- ・町田市30周年の際は、施設整備等を幾つか行ったが、今度の60周年に向けては施設整備等の構想はあるのか。

(事務局)

- ・60年を見据えた施設整備は議論していないが、中心市街地の魅力を高めるための一つとして文化芸術ホールの検討を行っている所。財政的に厳しい所もあるので、そこは選択と集中というところでどれをやるのが一番効果的なのか考えていながら施設整備を行っていきたい。

(委員)

- ・全体的に分かりやすくまとまっているが、中心市街地が何を目指しているか対外的な発信の表現を工夫する必要がある。例えば「成熟した都市居住とハイクオリティの都市サービスの実現」など。
- ・プロジェクトとは、関係者が目的を共有して組織的に動くものであるもので、今のような広い感じの捉え方でよい。今は10のプロジェクトが並列しているが、プロジェクトを進める過程でその中に幾つかさらに増えていくという、弾力的・重層的なプロジェクトスタイルにしたほうがよい。
- ・「限界性・雑多性のある商店街づくり」と「多機能育成・都市型居住まちづくりの推進」は、それぞれの要素が互いに入り込むところがあるので、相互にしみこむ表現にしたほうがよいのではないかと。
- ・駐輪場と駐車場は、行政の中で具体的プロジェクトになっていないようだが、目的を共有して組織的に動くということであれば、一つのプロジェクトになるのではないかと。

(委員)

- ・一時的な回遊のイメージはあるが、中心市街地に住み続けるという点からのアプローチが不足

している。中心市街地に住むシニア層や子育て世代の動きを想定することでより具体的なルートが見えてくるのではないかと。

- ・子どもセンターについて、子供が一人で動くという観点が抜けている。アクセスのための安全性や学び・文化の醸造という観点をもう少し入れたほうがよく、設定を一つ入れてもらいたい。
- ・回遊性が高まれば細い道にも人が入っていくことがある。そういった道を住民と一緒に楽しめるように仕掛けるプロジェクトがあってもよい。例えば、横浜市青葉区で保育園の子どもたちと小さな範囲を街歩きするというプロジェクトを行っており、家の軒先に出している花を、子供たちが評価することでコミュニケーションがとれ、保育園と地域を繋げることもなっている例がある。町田でも子育てマップを作ろうという動きがあると聞いており、他部局の動きとうまくタイアップできるプロジェクトがあっても良いのではないかと。

(委員)

- ・図面に相模原市側の地図がほとんど載っていない。森野住宅や原町田一丁目を議論するのであればあってしかるべき。
- ・プロジェクト構成について、手順をどうするかはたたき台として行政で作る必要があるが、行政が勝手に作った計画とならぬよう市民や事業者とどうコミットするかが今後の課題。
- ・芹ヶ谷公園は、楽しくないから人が来ないのでは。楽しくするために陶芸や版画などもあるが、少し硬い。オタクを呼ぶサブカルなどの柔らかいものにし、若者を広域から集めるなどといったことも考えてみてはどうか。
- ・ぽっぽ町田では、環境装置として優秀なハイレゾ音源を入れていると聞いている。聞くものや見えるものをテーマにしても面白い。
- ・回遊性向上のためのセットバックと言うが、本当にセットバックが必要かどうかは一度考えたほうがよい。

(委員)

- ・バリアフリーや交通マスタープランなど、それぞれの関連計画との対応関係を整理した上で、整備計画として何を行うか整理した方がよい。
- ・各プロジェクトはハードとソフトが必ず両方入って機能するものである。もう少しソフトが入っていることをうまく伝えたほうがよい。そうでないと行政がハードしか常に意識しないという受け止め方をされる可能性もある。
- ・短期・中期・長期の使い分けがきちんと定義されていない印象。すべてのプロジェクトにおいて短期から長期まで含んでいるはずであり、必ずしも今の分け方ではないはず。
- ・駐輪場・駐車場問題への言及が少ない印象。特にB、Cエリアで受け入れる必要があり、プロジェクトの関連を忘れずにやってもらいたい。
- ・整備計画策定を行ってどう変わるか、一度整理を行った方がより説得力が増すのでは。
- ・拠点整備の話が多いが、拠点を結ぶ動線に関するプロジェクトが弱い印象。

(委員長)

- ・計画の名前をどうするかという課題が残っており、通称を付けるか等プロジェクト名も検討の余地がある。

(委員)

- ・まちづくりにも、ペルソナマーケティング（データを基に作り上げられた架空のユーザーが満足するように商品やサービスを設計するマーケティング）の考え方が十分使える。誰が何をやるのかが一番大事なので、そこを考えてもらいたい。
- ・まちづくりを担い、街を繁栄させていくのは地域事業者である。自分の住む町の資産価値を上げて次の世代へ受け継いでもらうことを基本的な考え方として持っておかなければならない。

- ・色々な立場・考え方の人々が組織学習を行い、精緻化していくプロセスは必要不可欠。
- ・北海道置戸町では、地域商業者が自分のお店やその周りを花で飾り、コンクールを開いたりしており、行政では苗を分けたり育てていくための講座を設けるといった取組みによって、成功している。
- ・相模原などは活性化に向けて色々と動きがある。近隣都市がどのようなことを考えているのか情報をいただきたい。

(副委員長)

- ・各プロジェクトの実施・関係主体で抜け落ちている点がある。「界限性・雑多性のある商店街づくり」では、子育て世代への対応や子供の通り抜けなども関連するので、もう少し丁寧に掘り下げていく必要がある。
- ・地元民間とはどのような人たちを指すか丁寧に掘り下げていくと、「新たな連携によるまちづくり」の官民連携における民間の在り方にも繋がることになる。様々な主体の人を含めたまちの在り方について、プロジェクトごとに入れ込んでいけると良いのではないかと。

3 その他

- ・次回以降の委員会日程について

■ 第6回町田市中心市街地整備計画策定委員会

2015年5月12日(火) 16:30~18:30 (町田市役所 3-1 会議室)

以上